

2012年 (H24年)

有機JAS ・ MOA自然農法

林ツク 高橋農場



(2012年 4月14日)

過去2冬で有機質資材の冬季散布効果の優位性を確認したので、今季は2011年12月3・5日根雪初期の全圃場にトラクタを乗り入れて、醗酵ケイフンペレットを500kg31袋散布した。



(2月25日)

有機JAS圃場としては、
2011年12月3・5日 (500kg4袋)
醗酵ケイフンペレット機械散布
147kg/反
2012年2月25・26日 (20kg15袋)
22kg/反
3月 1日 (20kg4袋) }
3月19日 (20kg5袋) } 13kg/反



(3月 1日)

2月散布した意味合いは、有機質資材の分解時期をずらす為。
3月も同様ですが、融雪効果も加味しています。
結局、作物を播種する時の元肥を含めて4回に分けて有機質を圃場に入れています。

4月の雪融けになると、畑一面が白くなっていました。
私としては、初めて見た光景に今年の収穫に想いを馳せています。



(4月14日・左隅は一般圃場)



(4月14日)



5月 1日

昨年の収穫終了後からこの圃場は反転耕起をしない事にしてみました。

約1ヶ月毎ロータリーで整地を2・3回行って、根雪前にサブソイラで心土破碎を行っています。



6月 1日

有機JAS圃場での初めての試み

② 疫病が進行する前に、芋の成長を進めておくきたあかり（芋）は、小玉傾向で収量が少ないので、5月29日に、パオパオで被覆しました。

除草の都合で、6月17日に剥ぎました。

③ キャベツを縦畝に導入

5月27・28日 定植

5月29日にパオパオを掛けて防虫対策。



6月29日

キャベツは、防虫対策でパオパオを掛けっぱなしにしていますが、除草が問題です。



6月29日

緩衝地帯の作物として、休閒緑肥のひまわりを6月1日に播種しましたが、なぜか芽が出ません。一般圃場でも同様です。

仕方無く、7月3日にエンバクとひまわりを混ぜて播種しました。その後降雨もあり、無事に発芽しています。

8月12日



サッシー： さやあかね： ノーザン・ルビー： シャドー・クイン： きたあかり： とうや： キャベツ： 黒大豆
8月20日



“ノーザン・ルビー” から “とうや” まで 茎葉処理

8月30日



“さやあかね” 茎葉処理

9月7日 サッシー 茎葉処理

10月22日 黒大豆 収穫



きたあかりのパオパオ被覆は、考えた程の効果は無かった。

芋も品種によってその生育時期が異なる。きたあかりは、後半肥大タイプらしく、肥大時期にはすでに茎葉が無く肥大できない。疫病が蔓延する前に肥大させる為に、来年は播種時期を早める比較試験を考えています。